



光る知性 豊かな心 強い意志

南 中 生

長井市立長井南中学校

令和 5 年 7 月 2 7 日

校長 赤間 幸生

成果を携え 大成長の夏に向けて



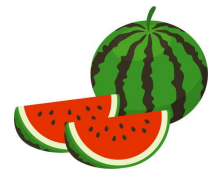
77日間の登校日数の1学期。あっという間に過ぎ去ったように感じます。次々と押し寄せる「しなければならないこと」「したほうがよいこと」に真っ正面から取り組み、成果を上げてきたことが多かったと振り返っています。中には（まだまだ・・・）（失敗ばかり・・・）（思うように行けなかったなあ・・・）などなど、その時々には納得がいかないこともあったと思います。そう悩むことが、既に次への挑戦に向かっている証拠であり、成長し始めていることなのです。1学期の頑張りや成長を最大限に讃えてほしいと思います。



SDGs・経済・紛争・異常気象など、世の中の動きに関心を高め、自分はこう思うという意見や考えを持ちながら生活してほしいと思います。そして8月21日(月)は、336名全員と勢いのある2学期のスタートを楽しみにしています！

家族で「共育」を楽しむ夏に

大人は、子どもの成長と共に子どもへの関わり方が変わりますが、変わらないのが子どもを大切に思う心です。



「乳児は、しっかり、肌を離すな」 乳児期は思いっきりスキンシップを
「幼児は、肌を離せ、手を離すな」 幼児期は友達との遊びから社会性を
「少年は、手を離せ、目を離すな」 児童期は善悪の判断とルールの厳守を
「青年は、目を離せ、心を離すな」 青年期は客観的に見る目を

と言われます。青年期となる中学生は、自分で考え、判断し、行動していくことが多くあります。そこでも親は心を離さず、アドバイザーとして関わるのが大事。

家族は、安らぎの場として共感的に話を聞いたり、一緒に作業したりする中で、頑張りや認めたり、命の大切さを伝えたりすることが肝心です。身近な大人の関わりの中で、愛されること、大切にされることで情緒が安定し、信頼感が育つ時期で



「今さら」と思うより「今から」やってみましょう。「できない」とあきらめるより「何から」できるかを探ってみましょう。大人の意識を高めるだけで、一層より良い成長につながっていきます。この夏、「共育」を楽しんでみましょう！

栄光の記録



◇ 第63回 山形県中学校総合体育大会 7月22日(土)～23日(日)

【卓球】

- 男子団体 第1位 <東北大会出場>
- 男子個人 第1位 木村 眞大 <東北大会出場>
- 第2位 植木 未来 <東北大会出場>
- 第3位 青木 吉真 <東北大会出場>

【バレーボール】

- 女子 ベスト8

【ソフトボール】

- ベスト8

【水泳】

- 100m背泳ぎ 第7位 青木さくら
- 200mバタフライ 第7位 遠藤 綾大

【陸上】

- 男子共通走幅跳 第8位 今野 奏翔

【バドミントン】

- 女子シングルス ベスト8 清野和夏菜

◇ 南中卓球部は常に平常心。なぜにここまで平常心の強さを発揮できるのか。練習によるお互いの信頼感の賜物。見事な県制覇！

◇ バレーボール競技会場に隣で競技していた陸上部員が応援に。そのおかげで25対23接戦を制し勝利！ 競技は違っても仲間を応援する姿に感動！

◇ 男子ソフトテニス負けて悔しい思いをしながらも、長井北中選手を全員で大きな声で応援。同じ長井のソフトテニスを志している仲間を思う姿が清々しい！

◇ 水泳部員は宿泊場所を後にするときに、「清掃員さんありがとうございました。おかげで頑張ることができました。」というメッセージを残してきた。きっと笑顔で読んでくださったことでしょう。

◇ 高校生の兄の応援を背に受けた選手が見事なランニングホームランを放ち、ソフトボールの大量得点につなげたことお見事！

◇ 女子ソフトテニスのコーチが、粘り強い試合を振り返って、今までの取り組みがよみがえり、声を詰まらせ泣きながら最後の指導くださったとのこと。感動的！

◇ バドミントン選手団は、拍手で盛り上げて粘り強く奮闘する姿が見られ、集大成にふさわしい姿。

◇ サッカー部は県大会の魔物に取りつかれ、いつものキレが抜き取られそうになったとき、今だかつてない声の掛け合いで勢いを増し、戦い切った暑い夏。

勇猛果敢に攻める本気の姿があった戦い、見ていてすがすがしい青春のさわやかさを感じさせる行い、などなど数字や結果には表れない南中生の姿を誇らしく思う県大会でした。

